

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02360

研究課題名(和文) アジアの植民地を訪れた日本人の紀行文に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental research on travelogues of Japanese who visited colonies in Asia

研究代表者

石井 正己 (ISHII, Masami)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：30251565

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：国際化社会において国境を越えて膨大な情報が溢れる中で、日本国内に限定した日本文学研究に限界があることは明らかである。実は、明治時代からアジアに植民地を拡大するのに伴って、台湾・樺太・朝鮮・南洋群島・満州の各地を日本人が訪れて、多くの紀行文を残している。だが、これまでの日本文学研究はそうした遺産があることを不問にしたままに進められてきた。日本人が長期にわたって滞在した場合もあるが、多くは一時滞在の旅行であるために軽視されがちであった。しかし、それゆえに見えてくる世界があるので、枯渇した文学研究を国際化社会に開き、その意義を検証してゆくには格好の研究対象である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本は帝国主義のもとアジアの各地に植民地を拡大し、大東亜共栄圏にまで拡大する。日本ではそうした歴史はすでに解決済みのように認識しているところがあるが、実際にアジアを訪れてみれば、忘れてはならない歴史として認識していることがわかる。そうしたことを考えるならば、アジアにおける相互理解を深めるためには、日本からの研究を積極的に提示する必要がある。そうした認識を深めることによって、初めて信頼関係を構築することが可能になる。そうした意味でも、本研究は、戦後70年を経た今、緊急に取り組みしなければならない課題としてある。

研究成果の概要(英文)：In a globalized society with a vast amount of information that crosses national borders, it is clear that there are limits to Japanese literature research that is limited to Japan. In fact, as the Meiji period expanded its colonies in Asia, Japanese people visited Taiwan, Karafuto, Korea, the South Sea Islands, and Manchuria, leaving many travelogues. However, research into Japanese literature up until now has proceeded without questioning the existence of such heritage. Although there were cases in which Japanese stayed for a long period of time, most of them tended to be neglected because they were temporary stays. However, because there is a world that can be seen because of that, it is a suitable research subject to open exhausted literary research to the internationalized society and to verify its significance.

研究分野：日本文学

キーワード：植民地 アジア 紀行文 帝国主義 従軍作家 視線 内国植民地

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国際的な学術交流を続ける中で、特に韓国や中国の博物館を訪れると、日本の植民地時代の歴史について展示してある場面に出会うことが多かった。しかし、日本にいと、海外でそうした認識があり、それにもとづいた教育が行われていることには気がつかない。日本の植民地支配に関する研究は、ポストコロニアリズムの思想もので研究が重ねられてきた。しかし、21世紀になって政治的な関係が悪化すると、研究にもブレーキがかかって停滞気味になっている。やはり、日本から責任のある研究を提示し、国際的な対話を深めてゆく必要がある。そのために、日本人がアジアを訪れて何を見たのかを考える必要があることを痛感した。それと同時に、アジアを含む外国人が日本を訪れて何を見たのか、相互の視線が交錯する様相を検討しなければならないと考えた。

2. 研究の目的

従来の文学研究では、紀行文はステレオタイプ化した画一的なことばかり書いていて意味がないように否定されてきた。観光や視察によって書かれた紀行文は多いが、一時滞在のため深い認識は見られないだろうという先入観があったらしい。日露戦争、日中戦争、太平洋戦争でも従軍作家がおびただしい紀行文を書いたが、それもあまり価値がないと見られたようである。しかし、それを丁寧に読み解くことによって新たな価値を提示したいと考えた。

3. 研究の方法

本研究を進めるためには、文献研究だけでなく、できるだけ現地を訪れて調査を行い、その地域の研究者と学術交流を深めることが大切であると考えた。実際、日本人が訪れた場所を訪ねて資料収集を行い、講演や発表を行う一方で、日本においてフォーラムやシンポジウムを実施して、研究者の招聘も行った。しかし、2020年春から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束せず、オンラインを使った実施にとどまることになった。それでも、実施できた成果をまとめることにした。

4. 研究成果

(1) 現地調査を次のように実施した。講演や研究発表を次のように実施した。

2016年9月、韓国・群山において、植民地時代の日本遺産および東国寺の調査を行い、資料を収集した。

2017年8月、韓国においてソウルと木浦を調査し、日本統治時代の遺構を確認するとともに、博物館の展示を通して、歴史認識の在り方を検討した。

2019年3月、中国・上海を訪れ、かつての県城ならびにフランス租界・イギリス租界・アメリカ租界・日本人居住地の調査と資料収集を行い、合わせて、多くの日本人が訪ねた中国・蘇州を訪れ、寒山寺等の調査と資料収集を行った。

(2) 講演や研究発表を次のように実施した。

2016年8月、韓国・全南大学校日本文化研究センターにおいて、「高浜虚子『朝鮮』が描いた世界」の講演を行った。

2017年8月、韓国・ソウルにある国立民俗博物館で開催された第3回の韓日共同学術会議において、「女性作家が書いた植民地 林芙美子の見た中国」の研究発表を行った。中国を植民地化してゆく過程にありながら、女性の視点でその生活を詳しく捉えたことを明らかにした。

2017年8月、韓国・全南大学校の日本文化研究センターにおいて、「イザベラ・バード『朝鮮奥地紀行』」の講演を行った。英国の女性探検家イザベラ・バードが激動の時代の朝鮮半島・満洲・沿海州を旅したことを取り上げた。強国に囲まれた朝鮮半島はやがて日本の植民地になってゆくが、その過程で王室と庶民を複眼的に捉えた意義を明らかにした。

2019年8月、韓国・ソウル市の国立民俗博物館において日韓共同学術会議を開催し、「薄田斬雲が書いた朝鮮 『ヨボ記』『暗黒なる朝鮮』『朝鮮漫画』」の研究発表を行った。

2019年11月、韓国・光州広域市の国立アジア文化センターにおいて開催された「2019年 ACC SYMPOSIUM」において、「文化コンテンツとしての民俗遺産」の記念講演を行った。

2020年2月、西東京市柳沢公民館で開催された「令和元年度西東京市図書館 縁(ゆかり)講演会」において、「西東京市ゆかりの文化人 尾崎秀樹の業績」の講演を行った。

2021年11月、国の全南大学校で開催されたオンラインの国際学会に参加し、「韓日（日韓）共同学会議の歩み」の講演を行った。

(3)フォーラムやシンポジウムを次のように実施した。

2016年12月、東京学芸大学において、「外国人が見た日本」のフォーラムを実施し、「講演 イザベラ・バードのまなざし 東京学芸大学教授 石井正己」の講演後、「外国人が見た日本」をテーマに、「小泉八雲の見た熊本 熊本大学准教授 鈴木寛之」「エリセーエフの見た東京 千葉大学名誉教授 荻原真子」「李光洙と帝都東京を歩く 韓国・全南大学教授 金容儀」のシンポジウムを実施した。

2018年3月、東京学芸大学において、「明治150年記念 帝国日本が歩んだ足跡」のフォーラムを実施し、「講演 エドナ夫人の写真コレクション 日米野球交流の真実 新潟大学教授 錦仁」「講演 従軍画家の紀行と絵画 東京学芸大学教授 石井正己」。「戦争という言説」のテーマで、「半島同胞」という銃後 銃後美談と総力戦 東京理科大学非常勤講師 重信幸彦」「戦蹟という風景 千葉大学非常勤講師 野村典彦」「戦争と慰霊 韓国・全南大学校教授 金容儀」のシンポジウムを行った。

2018年7月、東京学芸大学において、「越境するアジアの文学と教育」をテーマに、「モンゴル族のホウリン・ウリゲルの現状と課題 東京学芸大学博士課程 蒙古貞夫」「張謇の教育改革及び日本教育に関する情報源 東京学芸大学博士課程 劉佳」「黒岩淡香小説研究の現状と課題 北京師範大学博士課程 張玉」の研究発表会を行った。続いて、「アジア文学交流史を考える 植民地後／植民地前」をテーマに、「講演 植民地文学研究の開拓者・尾崎秀樹 日本・東京学芸大学教授 石井正己」「講演 海峡を越えるテキスト 韓国の「忠臣蔵」、日本の「春香伝」 韓国・全南大学校教授 金容儀」「記念講演 近世期韓日恋愛小説と仏教 『九雲夢』と『好色一代男』を中心に 韓国・檀国大学校教授 鄭ヒョン」「講評 今日の講演を聞いて 日本・上智大学客員教授 韓正美」を行った。

2019年6月、東京学芸大学において、「植民地時代とメディア」をテーマにフォーラムを開催し、「趣旨 植民地時代とメディア 東京学芸大学教授 石井正己」「講演 映像から見る新潟と植民地の間 近代以前と近代をつなぐもの 新潟大学教授 原田健一」「報告 植民地時代と書店・絵画・女性 中国人が見た内山完造 中国・上海理工大学講師 楊静芳」「伊東深水《南方風俗スケッチ》とその周辺 報道班員としての日本画家 小金井市立はげの森美術館学芸員 中村ひの」「従軍する女性作家・吉屋信子 東京学芸大学教授 石井正己」「共同討議 原田健一 楊静芳 中村ひの 石井正己 司会 立教大学非常勤講師 金廣植」を行った。

(4)関連する出版物を次のように刊行した。

2018年6月、石井正己編『アジア遊学』219（勉誠出版）に、「外国人の発見した日本」の特集として、「ヘボンが見つけた日本語の音 白勢彩子」「バジル・ホール・チェンバレン 大野真男」「カール・フローレンツの比較神話学 山田仁史」「アーサー・ウェイリー 植田恭代」「フェノロサの見た日本 手島崇裕」「フェリックス・レガメ、鉛筆を片手に世界一周 ニコラ・モラール」「エドワード・シルベスター・モース 角南聡一郎」「ブルーノ・タウト 水野雄太」「ジョン・パチェラーがみたアイヌ民族と日本人」「イザベラ・バードの見た日本 石井正己」「宣教師ウエストンのみた日本 小泉武栄」「ジョン・F・エンブリー夫妻と須恵村 難波美和子」「フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトのみた日本各地の海辺の営み 橋村修」「李光洙と帝国日本を歩く 金容儀」「S・エリセーエフと東京に学んだ日本学の創始者たち 荻原真子」「日本はどのように見られたか 桑山敬己」「コルネリウス・アウエハント 川島秀一」を掲載した。

(5)大学院の学生とともに編集した書評集『時の扉』は次のように刊行した。

- 「小特集 川村湊の植民地文学研究」（『時の扉』第39号、2018年7月発行）
- 「小特集 奄美・沖縄を書評する」（『時の扉』第40号、2019年3月発行）
- 「小特集 北海道を書評する」（『時の扉』第41号、2019年7月発行）
- 「小特集 江戸・東京を書評する」（『時の扉』第42号、2020年2月発行）
- 「小特集 新書で読むアジア」（『時の扉』第43号、2020年8月発行）
- 「小特集 中国を読む」（『時の扉』第44号、2021年3月発行）
- 「小特集 ジェンダーを読む」（『時の扉』第45号、2021年9月発行）
- 「小特集 朝鮮・韓国を読む」（『時の扉』第46号、2022年2月発行）
- 「小特集 ソ連・ロシアを読む」（『時の扉』第47号、2022年8月発行）

(6)報告書は次のように刊行した。

2018年12月、フォーラムの成果をまとめ、『平成30年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 越境するアジア 戦争・文学・女性』を刊行した。

2020年1月、フォーラムの成果等をまとめ、『令和元年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 植民地時代とメディア 映像・書店・絵画・女性』を刊行した。

2021年8月、日韓共同学会議をオンラインで開催するにあたって、『2021年 日韓共同学会議 自然・災害・感染症と民俗』を刊行した。

本研究の総括として、2022年10月、『平成28年度～令和4年度学術研究助成基金(基盤研究(C))研究成果報告書 アジアの植民地を訪れた日本人の紀行文に関する基礎的研究』を印刷・発行した。その中には、「日本人が書いた植民地紀行」をはじめ、「第1章 アジア文学交流史を考える」に「漱石の満洲、虚子の朝鮮」「薄田斬雲が書いた朝鮮 『ヨボ記』『暗黒なる朝鮮』『朝鮮漫画』」、「植民地文学研究の開拓者・尾崎秀樹」「尾崎秀樹の業績」、「第2章 旅する女性の紀行文」に「イザベラ・バード『朝鮮奥地紀行』」「従軍する女性作家・吉屋信子」「女性作家が書いた植民地 林芙美子の見た中国」、「井上ひさし『太鼓たたいて笛吹いて』」、「第3章 植民地時代とメディア」に「従軍画家の描いた絵画」「植民地時代とメディア」「あまりにも早過ぎた松岡静雄の学問」「戦争と昔話集」、「第4章 書評・批評」に「野上弥生子著『私の中国旅行』」「川越史郎著『ロシア国籍日本人の記録』」「田代和生著『倭館』」「澤村修治著『日本のナイチンゲール』」「本庄豊著『魯迅の愛した内山書店』」「原田健一著『戦時・占領期における映像の生成と反復』」「薩仁高娃著『プオ・シャマニズムの現在』」「崔仁鶴・巖鎔姫編著『韓国昔話集成 全8巻』」「『久保寺逸彦著作集 全4巻』の完結」「川島昭夫著『植物園の世紀』」「金廣植著『韓国・朝鮮説話学の形成と展開』」「荻原真子著『いのちの原点「ウマイ」』」「鄭玄雄画、新倉朗子訳『ノマと愉快な仲間たち 玄德童話集』」「斧原孝守著『猿蟹合戦の源流、桃太郎の真実』」「太平洋を渡ったハチ公」「忘れてはならない尾崎秀樹の足跡」「奄美からの視点を越えるために」「菅江真澄の書いたアイヌ語地名の問題」「飯倉照平さんの南方熊楠と中国民話」を広く収録した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石井正己	4. 巻 5
2. 論文標題 菅江真澄がみた北海道・東北の地名	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北海道博物館特別展「アイヌ語地名と北海道 連続講座・特別フォーラム	6. 最初と最後の頁 37～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 73
2. 論文標題 吉田初三郎著『絵に添へて一筆集』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 13～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 45
2. 論文標題 澤村修治著『日本のナイチンゲール 従軍看護婦の近代史』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 20～22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 46
2. 論文標題 田代和生著『倭館 鎖国時代の日本人町』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 15～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 42
2. 論文標題 明治の音を聞く 『明治百話』 『都市空間のなかの文学』 『明治の音』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 44～47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 43
2. 論文標題 野上弥生子著 『私の中国旅行』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 1～4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 3357
2. 論文標題 川島昭夫著 『植物園の世紀 イギリス帝国の植物政策 』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊読書人	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 1
2. 論文標題 芥川龍之介 「南京の基督」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 石井正己研究代表 『令和2年度広域科学教科教育学研究経費成果報告書 感染症をめぐる歴史認識と教材開発のための基礎的研究』	6. 最初と最後の頁 89～92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 44
2. 論文標題 本庄豊著『魯迅の愛した内山書店 上海雁ヶ音茶館をめぐる国際連帯の物語 』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 26～28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 1
2. 論文標題 日本民謡と「知」 『遠野物語』に見る峠の風景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 檀国大学校日本研究所編『第三回 海外碩学招請講演 講演資料集』	6. 最初と最後の頁 82～110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石井正己	4. 巻 1
2. 論文標題 薄田斬雲が書いた朝鮮 『ヨボ記』 『暗黒なる朝鮮』 『朝鮮漫画』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日韓共同学会学術会議実行委員会編『韓日共同学会学術会議 女神信仰について』	6. 最初と最後の頁 192～209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石井正己	4. 巻 1
2. 論文標題 文化コンテンツとしての民俗遺産	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 韓国・国立アジア文化センター編『2019 ACC SYMPOSIUM』	6. 最初と最後の頁 104～127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石井正己	4. 巻 無
2. 論文標題 植民地文学研究の開拓者・尾崎秀樹	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書 越境するアジア 戦争・文学・女性	6. 最初と最後の頁 38～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 無
2. 論文標題 イザベラ・バード『朝鮮奥地紀行』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書 越境するアジア 戦争・文学・女性	6. 最初と最後の頁 91～96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 無
2. 論文標題 女性作家が書いた植民地 林芙美子の見た中国	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書 越境するアジア 戦争・文学・女性	6. 最初と最後の頁 97～101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 無
2. 論文標題 井上ひさし『太鼓たたいて笛吹いて』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成30年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書 越境するアジア 戦争・文学・女性	6. 最初と最後の頁 102～113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 39
2. 論文標題 忘れてはならない尾崎秀樹の足跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 1~1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 5
2. 論文標題 漱石の満洲、虚子の朝鮮	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 全南大学校日本文化研究センター編 『日本文化の現場と現在』 韓国・民俗苑	6. 最初と最後の頁 357-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 1
2. 論文標題 女性作家が書いた植民地 林芙美子の見た中国	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『2017年韓日共同学会議 人間と動物の民俗世界』 中央大韓国遺産文化研究所	6. 最初と最後の頁 269-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井正己	4. 巻 予稿集
2. 論文標題 日本文学における人鬼交驛 異類婚姻譚の系譜を中心として	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 檀國大學校日本研究所編 『韓国研究財団一般共同研究事業 第2次年度第5・6次コロキウム』	6. 最初と最後の頁 54~89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石井正己	4. 巻 予稿集
2. 論文標題 帝国日本が編纂した内国植民地の教科書 『北海道用尋常小学読本』『沖縄県用尋常小学読本』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 全南大学校日本文化研究センター編 『第11回 国際学術シンポジウム 沖縄文化の伝統と変容』	6. 最初と最後の頁 12～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 石井正己	4. 巻 36
2. 論文標題 太平洋を渡ったハチ公	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 時の扉	6. 最初と最後の頁 45～48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 「韓日 (日韓) 共同学術会議の歩み
3. 学会等名 韓国・全南大学校アジア文化研究所 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 感染症をめぐる奇蹟譚 古典から近代へ
3. 学会等名 韓国・洌上古典研究会2022第105次学術発表会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 薄田斬雲が書いた朝鮮 『ヨボ記』 『暗黒なる朝鮮』 『朝鮮漫画』
3. 学会等名 日韓共同学会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 日本における地域学の誕生
3. 学会等名 韓国・全南大学校湖南学研究院（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 文化コンテンツとしての民俗遺産
3. 学会等名 韓国・国立アジア文化センター 「2019年 ACC SYMPOSIUM」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 女性作家が書いた植民地 林芙美子の見た中国
3. 学会等名 韓日共同学会議（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 イザベラ・バードの『朝鮮奥地紀行』
3. 学会等名 全南大学校日本文化研究センター（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井正己
2. 発表標題 高浜虚子『朝鮮』が描いた世界
3. 学会等名 韓国・全南大学校日本文化研究センター（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 石井正己、金廣植訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 韓国・民俗苑	5. 総ページ数 235
3. 書名 帝国日本の刊行した説話集と教科書	

1. 著者名 石井正己編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京学芸大学	5. 総ページ数 61
3. 書名 戦争・女性・昔話	

1. 著者名 石井正己編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 218
3. 書名 外国人の発見した日本	

1. 著者名 石井正己編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 217
3. 書名 世界の教科書に見る昔話	

1. 著者名 崔仁鶴・石井正己編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 222
3. 書名 国境を越える民俗学 日韓の対話によるアカデミズムの再構築	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 東京学芸大学フォーラム「植民地時代とメディア」	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 東京学芸大学フォーラム アジア文学交流史を考える 植民地後/植民地前	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 東京学芸大学フォーラム 明治150年記念 帝国日本が歩んだ足跡	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 東京学芸大学フォーラム	開催年 2016年～2016年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------